様式５

アジア・アフリカ学術基盤形成事業セミナー実施報告書

平成　22 年　7 月　2 日

独立行政法人日本学術振興会　殿

＜研究代表者　立命館大学産業社会学部・荒木穂積＞

セミナー実施報告書を次の通り作成しましたので提出します。

セミナー名		日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 第 5 回「東アジア発達障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」
開催期間		平成　22 年　5 月　31 日　～　平成　22 年　6 月　3 日（　4 日間）
開催地		中国、上海市、復旦大学
日本側責任者	氏名	荒木穂積
	所属機関･職名	立命館大学産業社会学部・教授
開催責任者（※日本以外で開催の場合）	氏名（英文）	（中国）黄辛隠 （China）Huang　Xin Yin （ベトナム）Nguyen Thi Hoang Yen （Vietnam）Nguyen Thi Hoang Yen
	所属機関･職名（英文）	（中国）蘇州大学教育学院・教授 （China）Professor, Soochow University, School of Education （ベトナム国）ハノイ師範大学障害児教育学科・学科長兼障害児教育センター長 （Vietnam）Dean, Associate Professor, Hanoi University of Education, Department of Special Education

セミナーの概要及び成果

【概要】

第5回セミナー（上海市、復旦大学）は中国で開催を予定している2回のセミナーのうちの最初のセミナーである（本事業通算5回目）。今回のセミナーは１つのセミナー（パート１とパート２）と１つのワークショップ（ワークショップⅠ、ワークショップⅢ）で構成された。

セミナー（5月31日）は、中国での発達障害児研究の実情把握と交流（パート１）およびこの間取り組んできた国際共同研究の中間報告（パート２）の２つのパートからなった。パート１では、上海市および北京市で実際に取り組まれている発達障害児への支援および個別指導計画作成についての理論と実際について報告を受け研究交流した。パート２では、親のニーズ調査（本調査）の中間報告を受け論議した。

また、セミナーの他に2日間にわたってワークショップを開催した。ワークショップは３つパートで構成された。ワークショップⅠ（6月1日午前）では、中学校卒業後の生徒を対象にした上海市内の知的障害児のための職業学校を見学した。ワークショップⅡ（6月1日午後）では、国際共同研究「発達障害児の親支援のための調査」（3ヵ国の先行研究）の報告書の作成および研究成果の公表について協議した。また、調査研究と発展させるためにインタビューによる聞き取り調査を行ったがその研究方法の提案をおこなった（日本が予備調査結果を報告した）。ワークショップⅢ（6月2日）では、上海市で取り組まれている治療教育プログラムおよび学校教育の実情視察を中心に研究交流をすすめた。

最終日（6月3日午前）には復旦大学社会発展学部の施設見学およびスタッフとの交流をおこなった。また、ベトナムグループは、カウンターパート大学である蘇州大学に移動し、研究交流をおこなった（6月3日午後および6月4日終日）。

なお、次回セミナー(通算6回目)を2010年11月3日～6日に南京市（南京師範大学）で開催する計画である。

【成果】

セミナーは、復旦大学を会場におこなわれたが、カウンターパート先である蘇州大学から若手研究者および大学院生が約30名参加した。また、会場校の復旦大学および関連大学・施設（華東師範大学、上海師範大学、上海市、江陰市などの福祉、教育、医療、行政関係者など）が約100名参加した。全体の参加者は、合計約150名（関係者約20名を含め）であった。

セミナー前半（パート１）では、今回初めて中国でセミナーを開催する意義についての理解を広げることができた。また、蘇州大学、復旦大学、上海師範大学などセミナー登録メンバーの他に華東師範大学など関連大学からの参加もありネットワークを一回り広げることができた。

セミナーの内容としては、中国での発達障害児の実態と研究の実情を理解する上で、実際に治療教育の最前線で取り組んでいる3名の報告者からの発表があったことは有意義であった。特に近年の中国で、この分野でのめざましい発展を遂げている様子をうかがうことができた。

セミナー後半（パート２）では、上海市以外の中国（北京市）、日本、ベトナムからそれぞれ報告がなされた。後半の発表においては、国際共同研究「発達障害児の親支援のための調査」（3ヵ国の国際比較研究）の内容に沿って報告が準備された。具体的には、親のニーズ（中国）、デイケヤーセンター（サービス）の役割とその発展の現状（ベトナム）、国際共同研究の中間報告（発表者：竹内謙彰教授）の3つの報告がなされた。研究成果を広く市民・関係者に還元する機会となった。

ワークショップに関しては、ワークショップⅠ（学校見学：障害児のための職業学校）、ワークショップⅡ（「国際共同研究調査結果－中間報告－」の発表と今後の方向性に関する検討、ワークショップⅢ（ケーススタディ：各国から3事例を報告）をおこなった。ワークショップは市民・専門家には公開せず、セミナーメンバーおよび立命館大学、蘇州大学、復旦大学の院生およびスタッフが参加した。参加者は、20名（延べ人数）であった。若手の研究者および大学院生が参加者の半数を占め、研究交流上大きな意義があった。内容は、これまでの研究成果を踏まえつつ、事例研究の必要性、3カ国比較の統計的妥当性の検証、次回セミナー（南京師範大学で開催予定）の打ち合わせをおこなった。また、ワークショップ終了後、中国蘇州大学のメンバーとベトナムのメンバーとの研究交流がおこなわれた。今後さらに幅広い緊密なネットワークの形成が期待される。

メンバー

〇参加者

① 「参加研究者リスト」に記入されている参加者数 19 人

（「参加研究者リスト」の研究者番号を記入してください。経費負担の別により区別すること。＜A：セミナー経費より負担。B：共同研究・研究者交流経費より負担。C：本事業経費からは負担しない。＞）（形式任意）

（日本側）

1-1 立命館大学 荒木穂積 A （講演）

1-4 立命館大学 竹内謙彰 A （講演）

1-10 立命館大学 荒井庸子 A （報告）

1-13 立命館大学 前田明日香 A （発表）

1-14 立命館大学 張 鋭（Zhang Rui） A （発表）

1-24 大阪女子短期大学 荒木 美知子 C （報告）

1-26 立命館大学 唐 妍（Tang Yan） C （発表）

（中国側）

2-1 Soochow University, Huang Xin Yin（黄 辛隠） C （コメンテーター）

2-3 Beijing Stars and Rain Education Institute, Tian Hui Ping（田恵萍）A （講演）

2-6 Fudan University, Sun Shijin （孙 时进） C （発表）

2-7 Fudan University, Wu Guohong（吴 国宏） C （コメンテーター）

2-8 Shanghai Normal University, Shen Yongqiang（沈 勇强） C （発表）

2-9 Fudan University, Li Xiao Ru （李 暁茹）C （報告）

2-10 Nanjing Normal University, Ye Hao Sheng （葉 浩生） A （講演）

（ベトナム側）

3-1 Hanoi University of Education, Nguyen Thi Hoang Yen A （講演）

3-7 Hanoi University of Education, Bui Thi Lam A （発表）

3-17 Hanoi University of Education, Dao Thi Bich Thuy A （報告）

3-22 Ho Chi Minh City University of Education Le Thi Minh Ha A （発表）

3-23 Hope Center No1 Dong Thi Thanh Huong A （発表）

② 「参加者研究者リスト」に記入されていない一般参加者数 130 人

（リスト不要）

（ア） 講演者 2 名

（イ） セミナー参加者 約 120 名

（ウ） 事務及び施設管理者 約 10 名（参加者には含めず）

○日程及び課題（セミナー関連資料があれば添付すること）

1. 2010 年度第 5 回東アジアセミナータイムスケジュール（メール添付）
2. 6 月 1 日開催セミナー配布資料（メール添付）
3. 6 月 1 日開催セミナーチラシ（メール添付）
4. セミナーの様子（メール添付、画像）